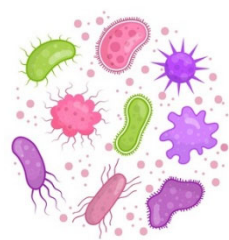


図書館だより

第2号

奈良情報商業高校図書館
令和2年5月発行



リレーコーナー

「コロナと仕事」

司書教諭 石本尚美

学校で授業ができなくなって2ヶ月以上が経った。長い教員生活で初めてのことである。3月の初めにはここまで長引くとは思っていなかった。修了式できるかなあ、離任式どうなんの、始業式こそは…と思っているうちに、入学式は縮小、週1回の登校もできなくなり、宿題を郵送したり、動画を作ったりと今までにやったこともないことをして日が過ぎてゆく。5月も半ばを過ぎ、いつもならそろそろ中間テストの準備にかかる頃になってしまったのに、まだ先が見えない。このたよりが届く頃には事態はいくらか進んでいるのだろうか。

家の近くを歩くと、農家の方が田植えの準備をされている。自然相手の生業は季節の巡りによってやるべきことにゆるぎがない。3密もない。もちろん作物を出荷するということになると、少なからず影響を受けるのだろうが、淡々と作業をこなしておられるのを見るとうらやましくなる。多くの仕事がコロナの影響を受けて立ち行かなくなり、慣れないパソコン作業に打ちのめされている自分がみじめだ。ああ目と腰が痛い。

『感染症の世界史』 石弘之著 KADOKAWA/角川ソフィア文庫

地上最強の地位に上り詰めた人類にとって、感染症の原因である微生物は、ほぼ唯一の天敵だ。医学や公衆衛生の発達した現代においても、日本では毎冬インフルエンザが大流行し、世界ではエボラ出血熱やデング熱が人間の生命を脅かしている。人が病気と必死に闘うように、彼らもまた薬剤に対する耐性を獲得し、強い毒性を持つなど進化を遂げてきたのだ。40億年の地球環境史の視点から、人類と対峙し続ける感染症の正体を探る。

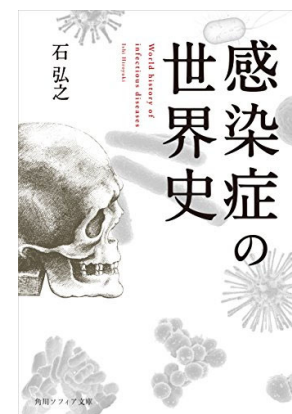
人類対微生物との闘いの歴史、そしてこの目に見えない広大な微生物の宇宙を覗いてみよう！

第一部 二〇万年の地球環境史と感染症

第二部 人類と共存するウイルスと細菌

第三部 日本列島史と感染症の現状

「生物は感染したウイルスの遺伝子を自らの遺伝子に取り込むことで、突然変異を起こして遺伝情報を多様にし、進化を促進してきたと考えられる。」



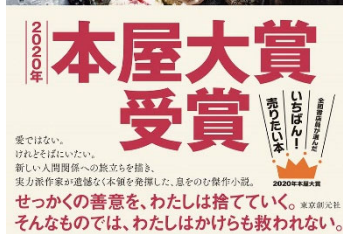
新着図書案内

2020年本屋大賞受賞作

『流浪の月』 凧良ゆう著 東京創元社

あなたと共にいることを、世界中の誰もが反対し、批判するはずだ。わたしを心配するからこそ、誰もがわたしの話に耳を傾けないだろう。それでも文、わたしはあなたのそばにいたい。再会すべきではなかったかもしれない男女がもう一度出会ったとき、運命は周囲の人を巻き込みながら疾走を始める。新しい人間関係への旅立ちを描き、実力派作家が遺憾なく本領を発揮した、息をのむ傑作小説。

(Amazon.co.jp より)



おすすめ

『ウイルス・細菌の図鑑

感染症がよくわかる重要微生物ガイド』

北里英郎 原和矢 中村正樹共著 技術評論社

微生物の基礎知識から感染症の仕組みまでを徹底図解！

絵や図、顕微鏡写真で目に見えないウイルスや細菌など（ウイルス35種、細菌28種など）を紹介。恐ろしい感染症が数多く存在する。わかりやすく丁寧に説明されている。

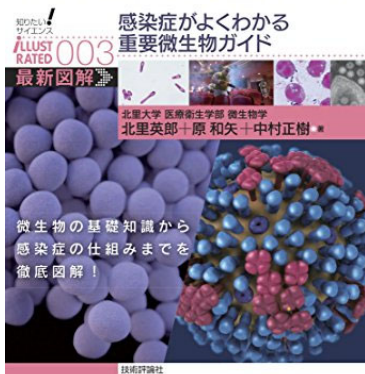
Chapter 0 巻頭 ビジュアル 人類の脅威となった感染症

Chapter 1 ウイルスと細菌の基礎知識(微生物の分類)

Chapter 2 感染症からみたウイルス・細菌

Chapter 3 ウイルス・細菌図鑑

ウイルス・細菌の図鑑



おすすめ

子供の読書キャンペーン～きみの一冊をさがそう～ 文部科学省

古坂大魔王（文部科学省 クロス カルチュラル コミュニケーション大使）
『だるまさんが』 『だるまさんの』 『だるまさんと』（だるまさんシリーズ）
かがくいひろし 著

だるまさんとその仲間のおりなす、シュールで可愛くて病みつきになる絵本。読み聞かせをしていると、「だるまさんが～」の言葉に反応して子供達も一緒になって読んでしまうという、楽しくコール&レスポンスができる内容になっていて、この本を使って親子で様々なコミュニケーションが取れます！

●子供たちへのメッセージ

手に取って、感じて、読んで、めくる。そこに君達の未来が詰まっています。
本さえ読んでれば、この世界は走って行ける！

梶田隆章（ノーベル物理学賞受賞者・現東京大学宇宙線研究所所長）
『バッタを倒しにアフリカへ』 前野ウルド浩太郎 著

本書は、若いバッタ研究者がアフリカの砂漠での自らの研究体験について書いた本です。
駆け出しの研究者の研究への想いや、いろいろな苦労が書かれていて、著者に共感するところがたくさんあります。

研究というもののリアルな一面を知る機会を与えてくれる魅力的な1冊です。

●子供たちへのメッセージ

この本は、皆さんが皆さんの将来のことを考えるとき、きっと参考になると思います。

紺野美沙子（俳優・朗読座主宰）
『学問のすゝめ』 福沢諭吉 著

名著として知られる一冊です。皆さん、一万円札でおなじみの福沢諭吉の顔と名前は知っていると思います。

「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずといへり」という言葉も聞いたことがある、という方も多いでしょう。旧仮名づかいの文章は小学生には難しいかもしれませんが、インターネットで検索すると、現代語訳や漫画など沢山の種類の本があります。まずは、自分がチャレンジしやすい「学問のすゝめ」を読んでみてくださいね。

●子供たちへのメッセージ

「なぜ勉強しなくちゃいけないの？」この本はその疑問に答えてくれます。読むとムクムクと学ぶ意欲が湧いてくるから不思議。是非、この機会に読んでみてください。そして大人になっても読み返してみてください。きっと新しい発見があります。

童門冬二（作家）

『木を植えた男』 ジャン・ジオノ 著 フレデリック・バック 絵 寺岡襄 訳

著者の若いころの体験物語です。フランスのプロバンス地方に旅をした著者はある山の中で孤独な羊飼いに会います。土地は荒れていて村には住む人もいません。羊飼いは老人で口をききませんが、若者を親切に泊めてくれました。老人は毎日、木の実を荒地に埋めていました。「木の実は必ず木になり、林になり、森になる」と老人はいいます。この本は、そのとおりになった老人の努力の物語です。

●子供たちへのメッセージ

この本はみなさんに“人のために努力する勇気”を与えてくれます。それも“身近な所で自分に出来ること”を教えてください。そして、“小さな努力の積み重ね”が、やがて大きくなり、人のため社会のためになることを教えてください。

山崎直子（宇宙飛行士）

『COSMOS』 カール・セーガン 著 木村繁 訳

NASA 惑星探査の指導者だったカール・セーガン博士は、遥か太陽系外まで飛んでいくボイジャー探査機に、地球の言語や自然の音などを録音した「ゴールデンレコード」を搭載したことで知られます。「COSMOS」を読んで、私たちは「星の子」、宇宙の一部だと感動したことが、宇宙への興味を深めるきっかけになりました。私たちはどこから来て、どこへ向かおうとしているのか、大きく想像力をかきたてられる本です。

●子供たちへのメッセージ

私たちが実際に体験できることは限られますが、本は、時代や空間を超えて、様々なことを疑似体験させてくれます。本を通じて、心を大きく旅立たせてくださいね。

【https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_00480.html】より